

序

第一章 土佐浄瑠璃の系譜

第一節 土佐浄瑠璃の盛衰

初代土佐少掾／土佐太夫の継承

第二節 土佐浄瑠璃の芸統

虎之助と江戸筑後掾／「あつた大明神の御本地」と土佐節／虎之助と伊勢大掾／内匠虎之助と肥前掾

第二章 古浄瑠璃の継承と発展

第一節 さんせう大夫ものの変容

第二節 鬼神退治もの諸相

酒呑童子／鈴鹿山大嶽丸／新撰紅葉狩／頼政

第三節 「十二段草子」の発展

江戸浄瑠璃と「十二段草子」／肥前掾正本「源氏十二たん」と「土佐少掾正本」源氏十二段／縮約十二段草子／「源氏十二段」の特色／皐月十二段／花月十二段

第四節 聖徳太子伝の再生

第五節 中将姫説話の変貌

中将姫説話の成立と演劇化／古浄瑠璃「中将姫之御本地」／歌舞伎「当麻

1

1

2

16

29

30

35

60

86

111

中将姫まんだらの由来」／土佐浄瑠璃「中将姫」／「当麻中将姫」と「鷓山姫舎松」

第六節 日蓮上人伝の系譜

『日蓮上人註画讃』／承応三年板「にちれんき」／土佐浄瑠璃「日蓮大上人御一代記」／「鶴飼寺物語」

130

第三章 軍記ものの浄瑠璃化

第一節 義経像の形成

第二節 曾我ものの展開

風流和田酒盛／世継曾我／牧狩曾我／対面曾我

第三節 『太平記』の世界

謡曲・古浄瑠璃・歌舞伎の太平記もの／楠湊川合戦／大塔の宮熊野落／吉野拾遺

187

157

147

144

第四章 御伽草子・仮名草子・浮世草子の受容

第一節 『文正草子』と「塩屋文正物語」

『文正草子』と「塩屋文正物語」／常陸帯の神事による脚色／鹿島明神の利生譚の脚色／事物の起源・来歴を語る脚色法／戦闘場面の脚色／節事挿入の脚色

225

221

第二節 『大倭二十四孝』と「金山左衛門 大和廿四孝」

243

第五章 王朝世界の当代化

第一節 「塩釜大臣」と「融の大臣」

第二節 篁地獄巡りの変容

地獄巡りの古浄瑠璃／「小野篁地獄讃談」の地獄巡り／「泰平篁」における月宮殿

第三節 小町ものの近代化

小町説話と謡曲小町もの／野郎歌舞伎・古浄瑠璃の小町もの／「井筒」の系譜／吾妻業平色小町／桜小町

第四節 身替り劇としての「土佐日記」

「土佐日記」の板本とその内容／「土佐日記」と「伊勢物語」の共通点／「土佐日記」と「伊勢物語」の相違点

第五節 『源氏物語』の当代化

光源氏袖鏡／源氏花鳥大全／源氏六条通／統源氏／『源氏物語』を部分的趣向とするもの

第六節 新道成寺としての「定家」

内容／定家と式子内親王との恋愛談／新道成寺

第六章 近世演劇史の中の土佐浄瑠璃

第一節 玄宗楊貴妃説話の展開

近世初頭における玄宗皇帝と楊貴妃／玄宗楊貴妃説話の劇化／土佐浄瑠璃

璃「唐玄宗」

第二節 松風ものの変質と「現在松風」

謡曲「松風」／御伽草子『松風むらさめ』／古浄瑠璃「松風村雨」／初期歌舞伎の松風もの／土佐浄瑠璃「現在松風」／歌舞伎「松風」と近松作「松風村雨束帯鑑」

第三節 「一心二河白道」の位相

出羽掾正本「一心二かびやく道」と土佐少掾正本「一心二河白道」／土佐少掾正本「新撰一心二河白道」

第四節 景清ものの展開と「蓬萊源氏」

景清ものの二系統／「蓬萊源氏」の位置／その他の登場人物／金平浄瑠璃的戦闘場面／節事

第五節 「名古屋山三郎」の先進性

史実と「名古屋山三郎」／鞘当ものの始祖／心中道行の源流／仕形の脚色の意識／影響作との関係

初出一覧

索引

489 477

457

438

421

404

第一章 土佐浄瑠璃の系譜

土佐浄瑠璃は土佐少掾橘正勝によって始められた浄瑠璃であるが、その芸統や継承については不明な点が多かった。『声曲類纂』（弘化四年刊）には、二代目薩摩次郎右衛門の門人内匠虎之助が寛文・延宝の頃より自ら一流を語り出し、受領して土佐少掾と称し、堺町に操座を設けて興行し、土佐節といわれて流行したが、宝暦の頃には「はや廃れしと見えたり」と記されている。しかし、土佐少掾の受領の年や、宝暦までに何代を数えたかについてはふれられていない。この他に、『音曲道智編』『浄瑠璃大系図』『中古戯場説』『近代世事談』『江戸節根元記』『奈良柴』などにも土佐節について記されているが、その記載は混乱していて芸統や系譜を明確にすることはできない。

三田村鳶魚氏は大正十五年『歌舞伎研究』（第三輯）掲載の「土佐少掾橘正勝（上）」において、混乱した古記録を整理し、受領して土佐少掾橘正勝を名乗ったのは二代目であり、二代目薩摩次郎右衛門の弟子である初代土佐は受領しなかったとした。この後、若月保治氏は『古浄瑠璃の新研究』補遺篇（新月社 昭和十五年）で、二代目薩摩太夫の門人内匠虎之助が受領して土佐少掾橘正勝となり、元禄期には二代目土佐掾に継承されていたとした。また、黒木勘蔵氏の『浄瑠璃史』（青磁社 昭和十八年）では、初代を土佐少掾橘正勝として二代目薩摩太夫藤原直政（二代目薩摩次郎右衛門）の弟子とし、その子内匠源太夫が二代目土佐少掾を名乗ったとしている。

土佐太夫については昭和十九年に若月保治氏によって公にされた『松平大和守日記』^{注1}や、昭和三十一年・三十二年・三十三年に守随憲治氏によって提示された『御在府御在国日記』『御祐筆日記』『御目付日記』^{注2}などをはじめ『日乗上人日記』^{注3}『旧記拾要集』^{注4}などに記録が散見している。これらの資料を検討しながら、土佐浄瑠璃の系譜について明らかに